



地域円卓会議 in 国頭村

県内の島嶼地域と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える

実施報告書

日 時： 2016年2月24日（水）18:00-20:30
場 所： 国頭村民ふれあいセンター
主 催： 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

報告書作成
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議



- 日 時：2016年2月24日（水）18:00-20:30
- 場 所：国頭村民ふれあいセンター
- 着席者数：7名（論点提供者、司会、ファシリテーター含む）
- 来場者数：64名（行政・大学・企業・NPO・市民）

- 主 催：国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
NPO法人まちなかわくわく研究所
- お問合せ：国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティ
キャンパス事業本部

論点提供 當山 英雄 氏（国頭村役場 企画商工観光課 主任）

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える-国頭村編

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内5カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

センターメンバー



當山 英雄
国頭村役場
企画商工観光課 主任



加藤 大輔
JALプライベートリ
ゾートオクマ
総支配人



新垣 裕治
名桜大学 教授



古堅 一樹
琉球新報社 北部支社
報道部 記者



宮城 誠也
名桜大学国際学群
観光産業専攻
4年次

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 国頭村の人口は、4,900 人台になるだろう。ピーク時は 1950 年 12,000 人。
- 国頭村の人口、2010 年は 5,188 人。それをもとにした人口予測は 2015 年 5,027 人、実際は 4,783 人。2020 年は 4,858 人（予測）。国の予測を上回るいきおいで国頭村の人口が減少している。
- 高齢化率 2010 年 27.5%。
- 村には 20 の字がある。84%山林原野。国管理のダムが 3 つ。那覇市から 100 km（車で 2 時間）。
- 村面積 194.8 km²。県内 5 番目の広さ。与那覇岳がある。
- 一次産業従事者 463 人、20.6%。二次産業 14.7%。三次産業：64.7%（平成 22 年データ）。
- 建築業、ホテル、特別養護老人ホーム、米軍保養施設、観光業などがある。
- 不動産がない。公営住宅は 68 戸。満室。民間アパートも満室で住宅足りない。
- JAL プライベートリゾートオクマ。客室 184。コテージ 27 棟。
- 252 名雇用（正規＋、パート、契約）。正社員契約社員 135 名中、沖縄県出身者 83 名、内国頭村出身 39 名。
- 雇用喪失とあるが、実態として従業員は足りない。働きたい人とのミスマッチ。
- 独身寮 92 部屋。社宅 20 戸。不足感がある。
- 名桜大学の学生、県内 4 割、県外 6 割。

評価の提供

- やんばるの森が世界自然遺産に登録されるであろうとの話がある。
- 世界遺産になった場合、たくさんの方が来る。ブルーツーリズム、民泊、民業体験等目出しができる。
- 県外学生は沖縄を PR してくれる人材。

事例の提供

- 働く場所の事例として、木工職人を増やしていく国頭村の事業がある。地域資源いかしての雇用を生み出している。

視点の提供

- 地元の知識を持っていて、お客様に伝えることができる人材は、ホテルとしてありがたい。
- 自然を気に入った学生には、やんばるに住みたい人もいるが選択肢としてきびしい。
- 北部はホテルが多いが、ホテルへ就職する学生少ない。
- エコツーリズムは成長産業ともいえるが、ベンチャー要素もまだ強い。
- 積極的にエコツーリズムに関わる学生少ない。
- エコツーリズムの資源たくさんある。どう活用しているか検討している。就職数は少ない。
- 国頭村の世界自然遺産登録の話がある。エコツアーをどうつくるか、地域と一緒に考えていく。観光なのですべてが資源。
- エコツアーのガイドが必要。将来は若い人が国頭の森を紹介することに挑戦してほしい。ツアーガイド養成の事業をつくっていききたい。
- 大学を出て観光業に貢献したい学生の期待やビジョンと現場の現実（待遇の面など）が合わない。
- 大学と社会人の学びの場の連携。
- 学生が地域に出ていき、課題解決の提言などを行うしくみづくり。
- 交通の問題がある。学生で免許持ってない場合多い。地域の中に入っていくにくい。支援が必要。
- 教育は教室の中だけでなく地域という転換。自分の住んでいるところを勉強する。地域に深い知識もっている人、複合的な知性を持った人材。
- 廃校になった学校はデイケアや保育所になっている。アイデアもらいながら大学と一緒に何かできないか。
- スポーツ誘致でギャラリーがやってくる。その接点をどうつくるか。
- 住む場所の事例として、伊是名村古民家再生移住者向け事例がある。古民家の空き家を再生、修復して移住者向けにネットで募集するとアクセスが多かった。

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- **自然資源の活用** 世界自然遺産登録を想定し、エコツーリズム等の専門人材の育成。
- **地元を伝える人材** 地元(地域)について学び、伝えられる人材の育成。
- **地域と学生の交流** 定住につながる地域での交流。学生が地域へ出ていくしくみづくり
- **産業間の連携** スポーツ等のツーリズム産業やものづくり等の林業の産業連携を図る。

■参加者によるサブセッション

「国頭村に、若者にどう関わってもらおうか？」(原文のまま)

- ・ 学生にエコツアーを体験してもらう。
- ・ ゼミの活動としての受け入れ。
- ・ 地元の価値の向上。地元以外からの価値観の違い。
- ・ やんばるの良さを知ってもらう。体験型で。
- ・ 共同体の良さをPRして、安心の子育てを。
- ・ インターネットの活用、移住。
- ・ 兼業（IT+エコツーリズム）。
- ・ IT企業の誘致。
- ・ 中国人。
- ・ 年代を超えて共に働く！
- ・ ITと地域資源を繋いで事業化→ネット通販。
- ・ 若者に情報が伝わっていない→コワーキングスペースを作っていきたい！「やりたいことができる場づくり」
- ・ やんばるの森はいい！→自然遺産になると手をつけられなくなる！？ゾーニング必要。地権者まとめること必要。
- ・ イメージだけでなく、実際にその土地を体感させる。空家を利用。自然（海、山、畑）。このぼり祭り。
- ・ 賃金UP（仕事歴を給料に適切に反映）→意欲をなえさせない。
- ・ 空き家、空き公共施設を利用した住居を使って短期（2～3年民）雇用体制。
- ・ 地域と関わってどれだけ好きになってもらえるか、の仕組み。
- ・ 高校・大学に国頭村のエコツアーの企画を強化して、若者定住を進め、働き先の紹介や案内をする。
- ・ 地域の文化を若者に関わってもらい地域コミュニケーションを深めてもらう。
- ・ 定住の条件。
- ・ 働く場所はあるが問題はマッチング。間の役割が大事。
- ・ 過疎の良さがある。逆にこの“やんばる”の良さを売りに。
- ・ 村のランドデザイン。
- ・ 観光にかかわる。起業・立ち上げ方。
- ・ 東京-那覇、安い→強み、那覇→国頭→奄美 サンセットクルーズの楽しみ。
- ・ 企業の社会貢献。
- ・ 観光と仕事。若者が来る。若者が住む。
- ・ Made in 国頭のスポーツ産業を興す。メーカー←ウェア、グッズ。トレーナー。エコフィットネス。ハイケイ。
- ・ ふるさと納税で関わる。住むだけでも関わっている。
- ・ 芸能人を呼んで、エコツアーを企画運営する。例) 吉本芸人を呼んで生活させる。生活風景をネット配信。

若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

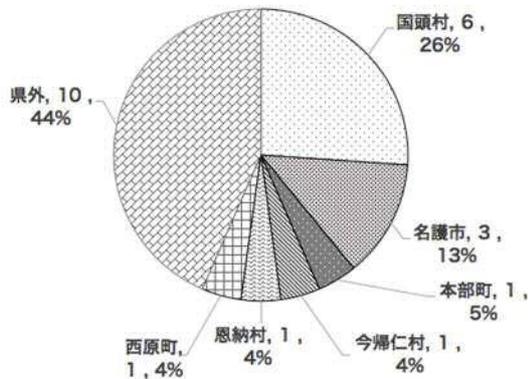
- ・日 時：2016年2月24日(水)18時～20時半
- ・場 所：国頭村民ふれあいセンター
- ・着席者：7名(司会、記録含む)
- ・参加者：64名(アンケート回収23名、回収率36%)

4. 満足度

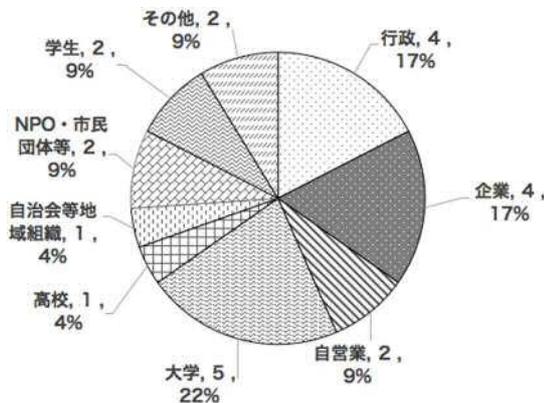
平均：4.61 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足してない	1.不満足
16名	5名	2名	0名	0名

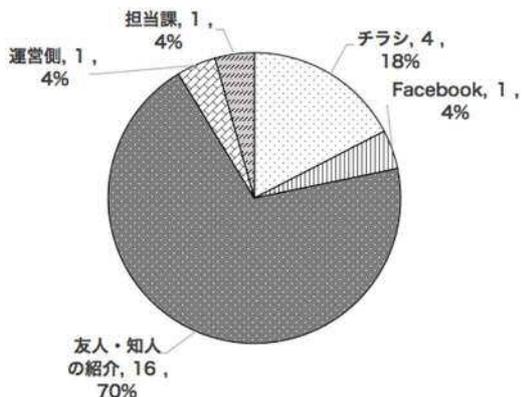
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

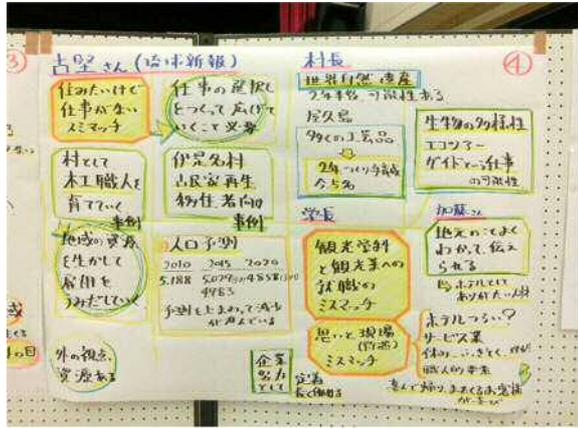
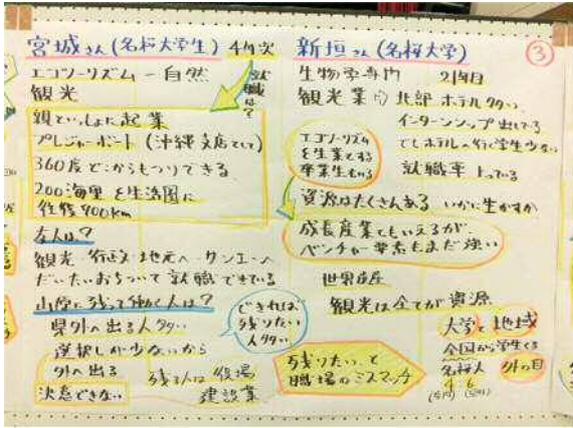
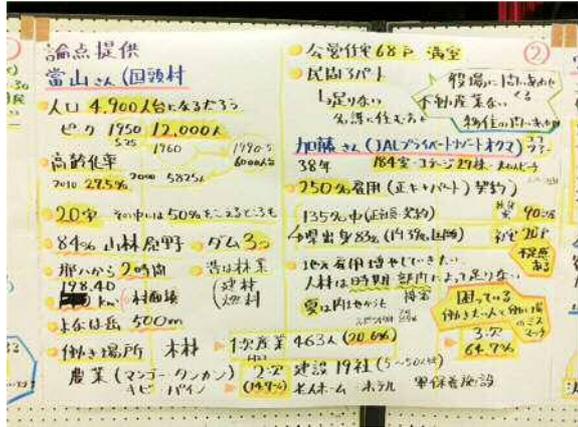
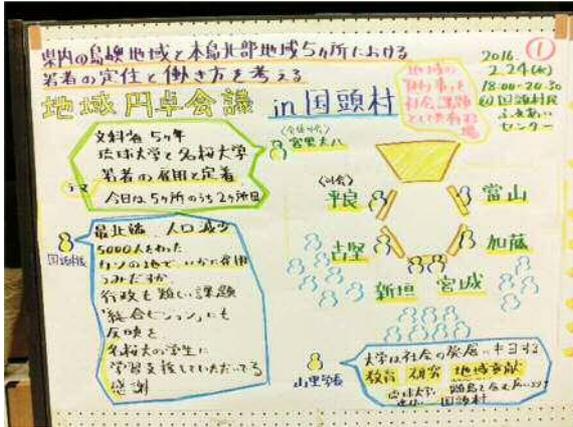
- ・こういった会議は初めてだったので、非常に考えさせられた。
- ・「産業を作るという議論」と「若者に地域の価値を認知させる」ことを分けて議論していく必要があることに気づいた。
- ・一つの課題に対して色々な視点からの意見があり勉強になった。
- ・「地域円卓会議」という手法を知れた。地元でやってみたい。
- ・若者の定着がテーマであるにもかかわらず、若者がほとんどいない。
- ・地元の教育関係者や医療関係者も来て欲しい。
- ・現状課題の再確認。等

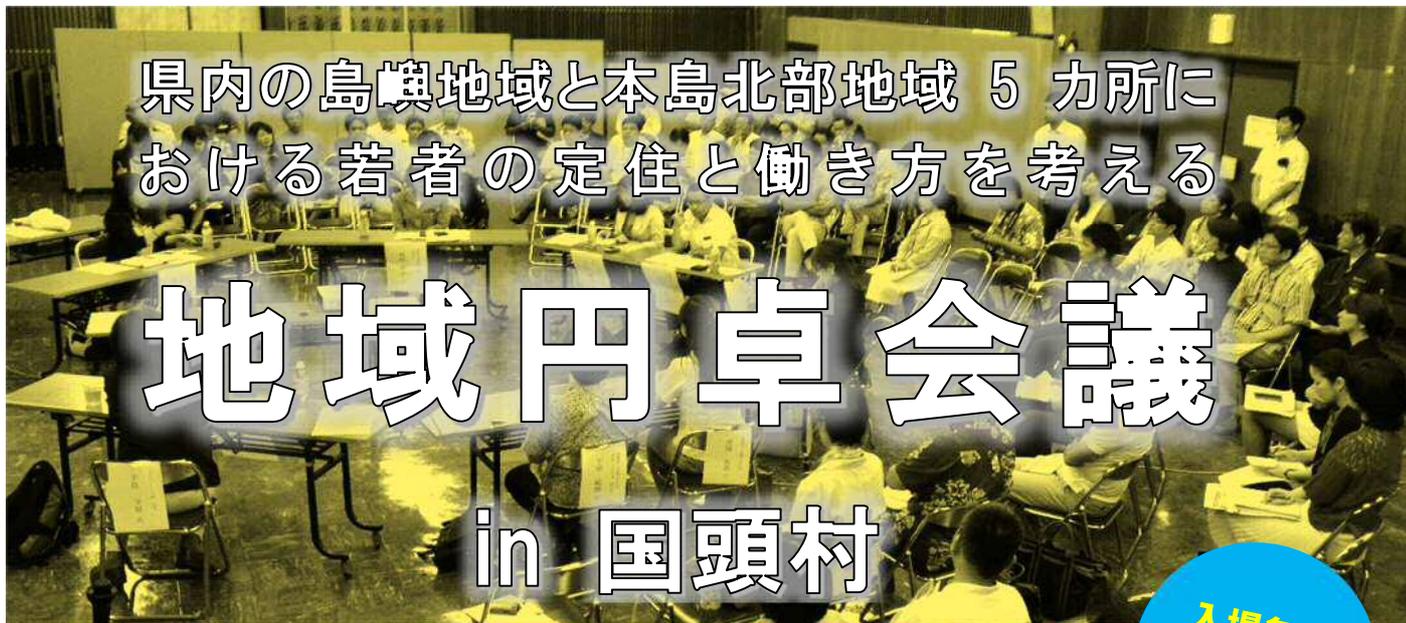
6. 印象に残ったこと

- ・スポーツに着目した取り組み、大学との連携、森林を活かした取り組み。
- ・お笑い+エコツアーの組み合わせのビジネス。
- ・国頭村には資源があり、人口が減ってきているのでその資源を産業化することが急がれるのではないかと思った。
- ・免許、車を持たない若者達にいかにか国頭にきてもらうかが問題である。名桜大学からの無料定期バスを走らせてみては。
- ・課題を地域の人が受け止めるのが円卓会議だと言われていた意味がわかりました。
- ・世界自然遺産として保全と利用の両立を図る。
- ・住みやすい環境整備の必要性。
- ・定住の前の交流が、良いと思った。
- 等

(写真) 会場の様子







県内の島嶼地域と本島北部地域 5カ所における若者の定住と働き方を考える

地域円卓会議

in 国頭村

入場無料

どなたでも
参加できます

テーマ

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える
-国頭村編

論点提供者 當山 英雄 氏 (国頭村役場 企画商工観光課 主任)

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。

企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5カ所(大宜味村、国頭村(2/24)、久米島町(3/3)、石垣市(3/10)、宮古島市(3/11))における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

2016年 2月 24日(水) 18:00-20:30 (受付開始：17:30～)

会場

国頭村民ふれあいセンター
沖縄県国頭村辺土名 112

対象

どなたでも参加できます。

参加申込方法

希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAXでお申し込みください。

e-mail : cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

TEL : 098-895-8019、FAX : 098-895-8185

- 主催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
- 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部 (担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019)

県内の島嶼地域と本島北部地域 5カ所における若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 開催のご案内

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5カ所における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

円卓会議とは

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える -国頭村編

<論点提供者> 當山 英雄 氏（国頭村役場 企画商工観光課 主任）

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

■タイムテーブル（予定）

18:00 オープニング ～あいさつ～
18:05 地域円卓会議について
18:10 【論点提供】「県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える-国頭村編」
18:30 セッション I（兼出席者紹介）
19:20 サブセッション（会場全体で意見交換） 兼 休憩
19:50 セッション II
まとめ
20:30 終了予定

■着席者

・當山 英雄氏（国頭村役場 企画商工観光課 主任）
・加藤 大輔氏（JAL プライベートリゾートオクマ総支配人）
・新垣 裕治氏（名桜大学 教授）
・古堅 一樹氏（琉球新報社 北部支社報道部 記者）
・宮城 誠也氏（名桜大学国際学群 観光産業専攻（4年次））

司会進行：平良 斗星氏（公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長）
記録者：宮道 喜一氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長）

●開催日時 2016年2月24日（水）18:00-20:30（受付開始：17:30～）

●会場 国頭村民ふれあいセンター（沖縄県国頭村辺土名 112）

●対象 どなたでも参加できます。

●参加費 無料

●定員 50名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。

ご希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAXでお申し込みください。

e-mail: cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX : 098-895-8185

■主催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部
(担当 安座間、大城、宮里 TEL. 098-895-8019)

参加申込書

所属

役職

ご氏名

連絡先

※ファックスでお申し込みの方はこちらの面をお送りください。